

新聞雜誌

明治壬申三月

第七號

定價二匁



|     |   |
|-----|---|
| 特   | 別 |
| 18  |   |
| 787 |   |
| 37  |   |



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ノルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ  
樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ムク多ク竟ニ我ヲ  
是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ  
太政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシ斯テハ逢カク世ニ生レシカヒ  
ナシ今 官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府縣ノ變遷又ハ  
里巷ノ瑣事外國ノ異聞マデ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ  
人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊子  
ヲ読玉フ人々一ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナリ驚  
ベク喜ベキ事多ク唯 隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫水ヲ疑ノ人ハ  
リト知玉ヘサテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ及カズト云ベク



新聞雜誌第卅七號

明治五年壬申

○三月十九日 皇后宮博覽會為御覽文部省エ行啓  
在セラレタリ

○先般非常ノ火災ニ遭遇シ流離困厄ノ者不少  
上深ク之ヲ憫ミ給ヒ左ノ通御教育金下シ賜ハリシ由  
主上金貳千兩 皇后宮金千兩

○先般ノ火災ニ付正院ノ外官負其他ヨリ左ノ通救助  
トシテ出金アリタリト云

金三千八百五拾八圓

大藏省官負

金二千三百七拾四圓

開拓使官負

金千四百拾四圓

東京府官負

金二千圓

為替三井組

金五百圓

横濱西替會社頭取  
原善三郎外四人

墨金千兩

横濱東洋銀行  
ロツセル

○先般發行ニ相成シ新貨條例ノ中定位銀貨五錢ノ分  
表面丸龍ノ模様ニ之アリシ處今般五錢ト文字ニ改メ  
ラル、ノ旨御布令アリタリ。

○新紙幣去月十五日御發行ノ儀御達シ相成候付テハ  
追々御引揚ノ太政官英ニ民部省ノ換札三百五十五萬

千七百四十三兩余三月十五日府下ハ代洲河岸舊紙幣  
察ニ於テ燒捨相成當日下民エ縱觀差許サレタリ

○先般特命全權副使トシテ歐米各國エ差遣ハサレシ  
大久保伊藤ノ兩氏合衆國華盛頓ヨリ近日歸朝ノ由三  
月上旬電信機ヲ以テ報知アリタル由

○友人上海ヨリ贈レル書中ニ彼地工部局醫生某ノ日  
記ヲ撮載セリ云迄来上海ニテ牛羊ノ病死スルヲ甚多  
シ一洋人牛三十五匹水牛三匹ヲ養ヒ居シカ已ニ牛ニ  
十二匹水牛二匹病死セリ此病最傳染シ易クシテ醫治  
シ難シ亦藥石ノ用ユヘキ物ヲ知ラズ牛羊ヲ飼フ者モ

シ此患アラハ其死ヲ不待速ニ之ヲ殺シ内乳等一切食  
 フ可ラス其病症ノ如キハ兩耳垂レ口内渴シ目光ニ神  
 色ナク四肢軟柔ニシテ氣喘キ腹冷ヘ瀉スルヲ如水六  
 日ヲ不過シテ即チ死ス後之ヲ驗スルニ氣管ニ傷ヲ受  
 ケ紅青色ヲ帶ブ其中儘黃點アリ甚多ケレハ肺亦損壞  
 ス支那養獸ノ家病ヲ受ル者其イクバクヲ不知現今工  
 部局ニ牛羊賣買ノヲ司ル者アリテ之ヲ檢查スルニ  
 到處此病ノアラザルナシト云々

○元姫路縣長谷川雉郎去庚午年九月大學南校ヨリ海  
 外留學ノ命ヲ奉シ米國ツロイ府學校ニ趣キ勉學セシ

ニ昨辛未冬肺病ニ罹テ死セリ其訃音共同府刊行ノ新  
 聞紙ヲ同行ノ人ヨリ遺リ我新聞紙ニ載センヲ託セ  
 リ因テ右新聞中ヨリ抄譯シ以テ左ニ記ス

日本人長谷川氏ハ同國政府ヨリ各國エ遣ハサレタル  
 生徒數百名中ノ一人ニテツロイ學校ニ滯學スル僅カ  
 一年間ナレ氏其才能ノ敏捷ナルト進歩ノ神速ナル能  
 ク書籍ノ意味ヲ了解シ幾ント英語ニ通熟シ學校ノ老  
 練先生ニ對シ議論應答ノ自由自在ナルヲ人々稱嘆セ  
 ザルナシ其所志ハ一身ノ精力ヲ盡シ勉勵刻苦シテ片  
 時モ早ク法科ニ從事シ速ニ實用ノ際ニ供シ以テ其國

ニ報セント欲セリ且講學ノ暇イダマシ普ク賢士ニ接シ交友ヲ博クセント欲シ日夜孜々シキ汲キ々日モ足ラサルガ如シ夫如此ニシテ止マス卒ニ志業ヲ終ニ歸郷セハ本國ノ政治ヲ裨ケ閑化ヲ進メ其有益ヲ為スヤ必然ナルベシ然ルニ去ル七月間我ニ五六月中不圖肺臟咯血ヲ發シ竟ニ肺勞不起症ノ因トナリ哀哉醫藥效シナク十二月十八日我十一月曜日ニ至テ年齡二十歳ヲ一期トシテ黃泉ノ冥途ニ趣ケリ因テ是ヲ「ユール」ニ埋葬セリ夫死生命アリト雖凡遠ク故國ヲ去リ萬里ノ風濤ヲ凌シキ外國ニテ死スルハ實ニ愍ヒ然ノ至リニシテ其父

母ノ膝下ニ死スルニ比スレハ其哀傷如何ソヤ且如此人ハ日本國開化日新ノ際ニ當リ其成業ノ上ハ為國有益ノ人物ナルニ志業中途ニシテ遂ニ一朝ノ烟ニ化スルハ眼前ニ在ル我曹ニ於テモ實ニ悲痛憫惻ノ余ヲリ茫然トシテ未ト真ト思ハレス同國人ノ身ニ在テハ其哀惜ノ情思ヒヤラル可シ乍然萬里ノ遠キ當國ニ在テ死セシナレハ其苦楚萬狀ナル眼前ニ見ル者ト違ナカヒ其本國ニ在ル人々ハ蓋シ左ノミニハ思ハザルベシ○長谷川氏病中同國人當地ニアル者卧起飲食其他介抱ノ親切ナル親戚ト雖凡及バサル所ハ實ニ筆紙ニ盡シ難シ夫

艱難相救ハ人タル者ノ情ナレ氏別シテ故國ヲ離レ遠  
國エ同行スルノ人々ハ皆斯コソ有度ナリ實ニ如此  
朋友ニ親切ナル人ハ必ス天ノ余慶ヲ受領シテ其幸福  
限リナカルベシト云々

○今般神祇省ヲ廢セラレ更ニ教部省ヲ被置ノ旨御布  
令アリタリ

○西本願寺 興正寺 佛光寺 錦織寺 專修寺

右華族ニ列セララル、ノ旨仰セ出サレタリ

○榎本釜次郎今般特命ヲ以テ親類預ヲ免セラレ開拓  
使四等出仕仰付ラレタル由

○非常共ニ御近火ノ節ハ大砲三發ヲ以テ合圖ト定メ  
置ル、ノ處自今非常ハ五發御近火ハ三發ト改定セラ  
ル、ノ旨御沙汰アリタリ

○左ニ掲ケシ火災消防器械ハ「米國」チカコウ會社ニ於  
テ商關セル「バツ」ブロックノ社中ニテ製スル銅器ニシ  
テ近頃彼國ニ於テ屢々鎮火ノ功ヲ顯ハシ其所費モ亦  
尋常ポンプニ比スレハ大ニ減少シ實ニ火災必携輕便  
裨益ノ要具トス定價一挺ニ付三十弗或ハ五十弗其器  
ノ大小ニ隨テ異ナリ藥品ハ六度分五弗ナリト云我カ  
工作業ノ輩モ之ヲ模製シテ必ス非常ニ備フベキ也

米國新發明火災  
消防器械畧圖



○今般諸科ノ學修業トシテ歐米各國エ差遣ハサレシ

生負左ノ如シ

學科質問ノ為  
佛國エ被差遣

河津 祐之

農學修業トシテ  
米國留學申付

市来 宗助

同

中嶋政之允

同

二藤 精一

同

西郷菊次郎

同

祝所 長八

同

得鉄新十郎

同

柴山 弥八

鑛山學修業トシテ  
米國留學申付

鮫島武之助

同

村田 十藏

同

志道新之允

同

大和七之允

同

大山 助市

農學修業トシテ  
魯國留學申付

江村 次郎

同

桐原 仁平

同

宮地堅一郎

|                    |         |       |
|--------------------|---------|-------|
| 工學修業トシテ<br>米國留學申付  | 野津 十郎 同 | 樋口千代熊 |
| 農學修業トシテ<br>佛國留學申付  | 山口彦次郎 同 | 山本 彦八 |
| 工學修業トシテ<br>佛國留學申付  | 上村 四郎 同 | 長谷部仲彦 |
| 鑛山學修業トシテ<br>佛國留學申付 | 榎本彦太郎   |       |

○來四月朔日西京荒神口元練兵場御用地ニ於テ富士ノ勝景兩國納涼ノ景況其他細工物種々ノ大花火發行セル由信報アリタリ

○高知縣土州高岡郡廣岡村元穢多廣本雄之ハナル者客歲穢多ノ名跡廢止御布令アリシ後河水ニテ身ヲ清メ詩歌ヲ作り遙ニ天恩ヲ祝謝シ奉リシトテ同縣

ノ人ヨリ申越セシニヨリ今之ヲ左ニ付ス

一陽來復入柴門。脱却穢臭傾小樽。亦是盲龜浮木事。不知何日報 天恩。

君ハ海岬ハ浪ナレヤ人ハ魚ナニヲ隔ツル潮ナルラン

○北里日洗學舎エ通學セシ或絃妓近頃所持ノ三絃及ヒ掃釵衣帶ノ類ヲ賣却シ書籍ヲ買ヒ求メ大ニ勉勵イタセシトソ

○頃日金川縣廳ニ於テ從來遊女屋其外ニ祭り置キシ金精明神殘リナク早々取捨踏ツブスベキ旨觸達有レ之タル由新聞紙ニ載セタリ或人ノ說ニ明神ノヲナレバ



之ヲ踏潰サンコリハ寧口握リツブスニ不<sub>レ</sub>如ト一突ヲ  
發セリ

○猿若町一丁目中村座弥生狂言ニ能優尾上菊五郎黒  
手組助六演技ノ時詞符讚辞ノタメ柳橋ノ絃妓数名出  
場スル由或人ノ話シニ先頃名優澤村田之助ノ為ニ諸  
妓ノ讚辞ヲ發セシハ固ヨリ善トス田之助ハ身廢疾ニ  
罹リ命且タニ迫リ猶能其技ヲ盡セリ因テ人々其敏オ  
惜ミ其薄倖ヲ憐レタハ人情不得<sub>レ</sub>已ノ理亦不可<sub>レ</sub>誣ナリ  
然レ氏或ハ喙ヲ容ル、者アリ今菊五郎ハ四肢ニ缺ル  
處ナク身最<sub>モ</sub>壯健ナリ然ルニ平生ノ才氣ニ似<sub>ニ</sub>合ズ已レ

聊ノ譽望ヲ得ンカ為妓ニ諂ラヒ彼ノ讚辞ヲ受ケ毫モ  
耻ル色ナシ素ヨリ俳優ト絃妓ハ一般ニ已カ媚ヲ獻シ  
人ノ悦ヲ取ル者ニシテ且助六ノ狂言ニハ古モ讚辞ヲ  
發セシ例アリトカ云ベケレト畢竟ニ丁目ノ糴粉ヲ甜  
リ其鬢ニ倣フノ醜体抱腹ニ堪ズト云リ左モ有ベキカ  
觀劇ノ眼ヲ具フル人ノ笑評ヲ待ツノミ  
○三月十六日曉五字頃第五大區十三小區淺草今戸町  
川村常三郎居宅ヨリ失火類焼戸數四拾六戸人員二百  
八拾二人ナリト云

新聞雜誌第廿七號 終

○百貨西洋冠會 假名垣魯文著 初編三卷近刻

此小説ハ故曲亭馬琴ガ質屋ノ庫トイヘル読本ノ  
鑿ニ倣ヒ横濱ノ押廩ニ歐羅巴諸州ノ器械衣類異  
形ノ物集會リテ人語ヲ發シ各國解ノ上ヲ語り國  
体事情ヲ演ルヲモテ趣向トシ編章戯文ヲモテ綴  
ルト雖モ確實樞要ヲ注意シ童蒙ヲシテ開化進歩  
セシムル方今風ノ滑稽辨史ナリ看客發兌ノ期ヲ  
待テ笑覽ヲ希フ

東京本石町二丁目  
書肆萬笈閣 椀屋喜兵衛

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス  
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及バサル處多シ願クハ同好ノ人  
何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉  
ハ次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉フ書付ニハ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ  
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

- 一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件
- 田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
- 一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
- 一諸船ノ入港出帆積荷ノ物件等
- 一店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一失物尋物等
- 一右等何レモ一行ヒ三宇一度出板價三匁宛同事件二度分ハ五匁ヲ令
- 一三度分ハ八匁ニテ御引受イタシ候
- 一見世モ集會等ノ引札
- 一一金銀其外ノ貸借等

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出板

當時發兌號ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引

同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局へ御引合ノ上御相談可申候

本局

東京兩國若松町

新 堂

東京兩國横山町三丁目

和泉屋金右工門

東京芝三島町

和泉屋市兵衛

大坂心齋橋通

河内屋吉兵衛

山京東洞院三条上ル町

村上勘兵衛

東京日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

大坂心齋橋道

河内屋喜兵衛

大坂心齋橋通安土町

河内屋清七

東京日本橋通

和泉屋杜造

賣弘所